２０２５年度入学生

臨　地　実　習　要　領

【母性看護学実習】

茨城県立看護大学校

看護学科　３年課程

〒309-1703　茨城県笠間市鯉渕 6528
TEL　0296－70－5521
FAX　0296－70－5529

母性看護学実習

〔2単位　90時間〕

目的

周産期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴や適応過程を理解し、母子の健康促進および家族関係の発達を目指した看護を実践できる基礎的能力を養う。

目標

1　周産期にある対象を総合的に理解できる。
2　周産期にある対象の状態に応じた援助が理解できる。
3　母性看護を通して、自己の看護観を考えることができる。
4　保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解し、他職種連携の重要性及び看護の継続性が理解できる。
5　専門職業人としての倫理観をもち、責任ある行動がとれる。

母性看護学実習

［2単位　90時間］

目的

周産期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴や適応過程を理解し、母子の健康促進および家族関係の発達を目指した看護を実践する基礎的能力を養う。

目標

1　周産期にある対象を総合的に理解できる。

1）妊娠経過に伴う妊婦・胎児の身体的・精神的・社会的変化および健康状態が理解できる。

2）分娩経過に伴う産婦・胎児の身体的・精神的・社会的変化および健康状態が理解できる。

3）産褥経過に伴う褥婦の身体的・精神的・社会的変化および健康状態が理解できる。

（1）健康状態を判断するために必要な情報を意図的に収集できる。

（2）妊娠・分娩経過から産褥新生児に及ぼす影響を想定できる。

（3）生理的変化および正常からの逸脱が判断できる。

（4）褥婦の状態に応じた援助が導きだせる。

4）新生児の健康状態及び日齢に応じた生理的変化が理解できる。

（1）健康状態を判断するために必要な情報を意図的に収集できる。

（2）妊娠・分娩経過から経過の想定ができる。

（3）生理的変化および正常からの逸脱が判断できる。

（4）新生児の状態に応じた援助が導きだせる。

2　周産期にある対象の状態に応じた援助が理解できる。

1）妊婦の健康や胎児の成長発達を保持・増進するための援助が理解できる。

2）分娩進行に応じた産婦及び家族への安全・安楽な支援が理解できる。

3）妊娠・分娩経過を考慮した退行性変化を促す援助が導きだせる。

4）褥婦の進行性変化に応じた援助が理解できる。

5）親役割獲得過程を促進するための援助が理解できる。

6）基本的な育児技術習得を促進するための援助が理解できる。

7）新生児の子宮外生活に適応するための援助が安全・安楽に実施できる。

8）実施した援助を振り返り、評価できる。

3　母性看護を通して、自己の看護観を考えることができる。

1）母子及び親子関係における対象の反応を捉え、その反応の意味が理解できる。

2）母性看護の体験から、生命誕生について考え、親性を述べることができる。

4　保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解し、多職種連携の重要性及び看護の継続性が理解できる。

1）周産期における継続看護の必要性が理解できる。

2）対象を取り巻く保健医療福祉チームの機能と社会資源が理解できる。

5　専門職業人としての倫理観をもち、責任ある行動がとれる。

6 実習での学びと自己の課題を明確にできる。

実習期間及び実習時間

1 実習期間： 月 日（ ）から 月 日（ ） 12日間

2 実習時間：8時30分～15時30分（8時間） 90時間

※開始時間は、実習施設によって異なる。

※14時00分～15時30分は記録整理の時間とする。

実習スケジュール例

実習1日目	実習2日目	実習3日目	実習4日目	実習5日目
（学内）2時間 実習オリエンテーション 施設別オリエンテーション	（学内）8時間 8:50～15:50	（臨地1日目）8時間 8:30～15:30	（臨地2日目）8時間 8:30～15:30	（臨地3日目）8時間 8:30～15:30
実習6日目	実習7日目	実習8日目	実習9日目	実習10日目
（臨地4日目）8時間 8:30～15:30	（臨地5日目）8時間 8:30～15:30	（臨地6日目）8時間 8:30～15:30	（臨地7日目）8時間 8:30～15:30	（臨地8日目）8時間 8:30～15:30
実習11日目	実習12日目			
（臨地9日目）8時間 8:30～15:30 終了カンファレンス	（学内）8時間 8:50～15:50			

※実習施設により、実習開始終了時間の変更がある場合がある。

※分娩見学時のみ17時00分まで実習延長可とする

内容

1 学習課題

1）妊娠の診断と正常な妊娠経過と看護

（1）妊娠の診断と分娩予定日の算出

（2）妊娠に伴う母体の生理的変化

（3）妊婦健康診査の目的、内容、スケジュール

（4）妊婦と胎児の経過のアセスメント

① 超音波検査の項目

② 胎児心拍数モニタリングの目的・方法・判断基準

③ 妊娠期の健康診査技術

④ 妊娠中におこりやすいマイナートラブルとその対処方法

⑤ 妊娠期に必要な保健指導の項目および内容

2）正常な分娩経過と看護

（1）分娩3要素

（2）分娩の機序と分娩経過（分娩第1期～分娩第4期）

（3）分娩期の看護（基本的ニードを満たす看護・産痛緩和法・呼吸法）

（4）早期母子接触

3）正常な産褥経過と看護

（1）産褥の経過（退行性変化・進行性変化・全身の変化・心理的変化）

（2）退行性変化を促す看護

（3）進行性変化を促す看護・授乳支援

（4）母親役割獲得に向けた支援

4）出生直後の新生児の観察とケア及び新生児の生理的特徴・経過と看護

（1）アプガースコアの項目と判定基準

（2）新生児アルゴリズム

（3） 出生直後の看護
（4） 子宮外生活適応状態（バイタルサイン・身体計測・排泄・体重・黄疸・栄養・免疫・臍）
（5） 新生児マススクリーニング、K2 シロップ、ドライテクニックの目的と方法
5） 帝王切開の術前・術後の観察と看護及び帝王切開で出産した新生児の看護
（1） 帝王切開術の適応と要約
（2） 帝王切開術の麻酔法と麻酔合併症
（3） 帝王切開術の合併症（母体側・胎児側）
（4） 術前・術後の観察とケア
6） 妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常
（1） 妊娠期
流産・早産・感染症・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病・前置胎盤・常位胎盤早期剥離
（2）分娩期
前期破水・分娩時異常出血・胎児機能不全・陣痛異常（微弱陣痛・過強陣痛）
産科処置（分娩誘発および促進、会陰切開、吸引分娩、鉗子分娩）
（3） 産褥期
子宮復古不全・産褥熱・乳腺炎・精神障害（マタニティブルーズ・産後うつ病）
（4） 新生児期
新生児仮死・分娩外傷・新生児一過性多呼吸（TTN）・呼吸窮迫症候群（RDS）
胎便吸引症候群（MAS）・高ビリルビン血症・低血糖
7） 新生児のバイタルサイン測定・身体計測の実技（児頭計測も含む）
8） 沐浴の実技
9） 実習施設がある市町村で行われている母子保健事業（事業名・法的根拠・内容・対象者など）HP 等検索
10） 多職種連携に関する文献検索
11） 産褥・新生児期の看護計画（記録4）の立案
12） 学習方法
（1） 1）、2）、3）、4）、5）、6）…授業で学習した内容を教科書や参考図書で確認し、付箋・マーカーをし、自己学習する。
（2） 4）③…妊娠期の健康診査技術（レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定、NST の装着）を学内の模型を用いて自己学習する。
（3） 3）、4）…授業で展開した産褥期・新生児期の看護過程の記録を、実習中に活用できるよう自己学習する。
（4） 7）、8）…新生児のバイタルサイン測定と身体計測及び沐浴について学内の模型を用いて安全に実施できるように自己学習する。
（5） 9）、10）…授業で学習した内容を教科書や授業資料、市町村のホームページなどで確認し、自己学習する。
（6）11）…授業で学習した資料を確認し、1 部作成する。実習2日目（学内日）に教員に提出する。

2 実習方法
1） 臨地実習初日に病院・病棟オリエンテーションを受ける
2） 実習スケジュールに沿って以下の実習をする。
（1）妊娠期にある対象への看護
① 医師による外来、または助産師外来で実習する。
② 妊婦健康診査の対象者の健康診査（子宮底および腹囲測定、レオポルド触診、児心音聴取）を指導の下行う。保健指導は見学する。

③ 両親学級・母親学級などの健康教育を見学する。
ア 準備から片付けまで、一連の流れを見学する。準備および片付けには積極的に参加する。
イ 参加する妊婦・家族とコミュニケーションを取り、対象理解を深める。

（2）分娩期にある対象への看護
① 分娩第1期から分娩後2時間までの看護を見学および一部実施する。
スタッフの指導の下、分娩の経過に応じた安全・安楽（産痛緩和・マッサージや呼吸法）の援助を通して、産婦および家族が分娩に主体的に臨めるよう支援する。
② 出生直後の新生児の看護および計測を見学する。
③ 胎盤計測を見学および一部実施する。胎盤計測は見学事例に限らず、実施可能。

（3）受け持ち褥婦及び新生児を対象とした看護
① 受け持ち事例については母子一体で看護過程の展開を行う。
正常経過が予測され、本人若しくは家族から了解を得られた産婦および産褥2日目までの母子から選定する。帝王切開術前後の母子を受け持つ場合もある。
② 学習課題　内容　11）で立案した看護計画（記録4）に、対象に応じた目標、計画を青字で追加・修正する。
③ 褥婦の生殖器の復古、乳房の状態の観察、育児技術、親役割獲得の促進への援助を、指導スタッフの下で実施する。
④ 産後の保健指導（母子同室指導、授乳指導、育児指導、退院指導等）は受け持ち褥婦の産褥経過にあわせて主体的に見学する。※受け持ち褥婦以外でも機会があれば積極的に見学する。
⑤ 新生児の日齢に応じた生理的変化の観察および子宮外生活適応過程を促進する援助をする。
⑥ 新生児のドライテクニック及び沐浴を実施する。
ア 受け持ち新生児のコットに沐浴実施カードを表示する。
イ 沐浴実施前に新生児の全身状態を観察し、沐浴可能か判断する。
ウ 観察した結果を新生児担当看護師に報告し、沐浴実施の確認をする。
エ 実施は、必ず臨地実習指導者または教員が立ち会う。
オ 沐浴実施後に沐浴中・沐浴後の新生児の状態を報告する。
⑦ 新生児の診察および処置を見学する。
出生直後の健康診査、聴力検査、先天性代謝異常の検査、血糖測定、血清ビリルビン採血、光線療法、K_2シロップ投与、退院時の診察、輸液管理、保育器管理

（4）受け持ち以外の新生児の看護
① 新生児の看護を見学・一部実施する。
（輸液療法・光線療法・保育器収容の新生児も含む）
② 新生児のドライテクニック・沐浴を実施する。（上記（3）⑥同様）
③ 日齢に応じた生理的変化の観察および子宮外生活適応過程を促進する援助をする。
④ 診察および処置を見学する。
出生直後の健康診査、聴力検査、先天性代謝異常の検査、血糖測定、血清ビリルビン採血、光線療法、K2 シロップ投与、退院時の診察、輸液管理、保育器管理
⑤ 出生直後の新生児の看護および計測を見学する。

（5）産後外来（母乳外来・産婦健康診査・産後健康診査）の見学をする。機会があれば積極的に実習する。
① 産後健康診査および保健指導を見学・一部実施する。
② 母乳外来は、事前に臨地実習指導者に相談し計画的に実習する。

（6）病棟カンファレンスおよび周産期ケア会議など多職種が連携している場（機会がある場合）に参加する。

3 カンファレンス

1）テーマカンファレンス（実習時間内の 30 分程度）

例：「多職種連携について」、「母乳育児支援」、「バースレビュー」 等

（1）方法

① 事前準備

ア 事前に気になる支援・指導などについて学生間で打合せを行う。

イ それぞれ学生受け持ち患者などの事例に応じて学生間でテーマを1つ決める。

ウ 学生それぞれが、テーマに沿って文献検索を行い、記録6にテーマと文献の選択理由をまとめる。

エ 文献を参加者分コピーして、必要な個所をマーキングして準備する。

オ 司会進行と書記を決める。

② 実施

ア 実習開始後、担当教員と日程を調整する。

イ 文献を用いてテーマに沿って意見交換を行い、2週目の援助に活かせる支援を導き出す。

ウ 教員より助言を受ける。

③ 事後

記録6にカンファレンスを通しての学びと課題について記述する。

2）終了カンファレンス（臨地実習最終日に1時間程度）

（1）目的

実習体験を通して得られた母性看護学実習の学びと課題を明らかにする。

テーマ「実習の目的・目標に沿った母性看護学実習の学びと課題」

（2）方法

① 事前準備

ア テーマに沿った学びを記録6の2/3程度にまとめて記述する。

まとめ、発表の準備をする。

② 実施

ア 各自の学びと課題の発表後、学生同士で意見交換を行い、内容を深める。

イ 臨地実習指導者・教員より助言を受ける。

③ 事後

記録6にカンファレンスを通しての学びと課題について、用紙の2/3程度にまとめて記述する。

4 学内実習

実習 1 日目

1）目的

（1）対象へ安全に母性看護技術の提供ができるように妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康診査技術・沐浴技術の習熟度を確認する。

（2）母性看護に必要な知識の確認と思考の整理を行う。

2）内容

（1）妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康診査技術・沐浴技術の確認

（2）母性看護・新生児看護の DVD 学習

3）方法

（1）妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康診査技術・沐浴技術の技術練習を行い、教員に技術チェックを受ける。

（2）指定された DVD を視聴する。

（3）記録6に、本日の技術演習と DVD 視聴の学びと課題について用紙の2/3程度にまとめて記述する。

（4）事前学習等の追加学習を行う。

（5）翌日の実習計画を作成する。

実習 12 日目

1）目的

（1）実習体験を振り返ることで、周産期にある母子を理解し、看護観を深める。

（2）母性看護学実習における学びを確認し、自己の課題を明確にする。

2）内容

（1）実習の振り返り

3）方法

（1）面接を通して、実践を振り返り、言語化する。

（2）記録の追加・修正

5 実習記録

記録1 分娩期記録　分娩見学実習記録

記録2 実習計画記録

記録3 産褥・新生児期記録　基礎情報 1・基礎情報2

記録4 産褥・新生児期記録　看護計画（褥婦・新生児 目標・計画）

記録5 産褥・新生児期記録　日々記録

記録6 カンファレンス記録

記録提出

「Ⅳ 実習の概要」を参照し、最終日の 16 時 00 分に提出する。

実習評価

「Ⅵ 実習評価」を参照し、評価表に基づき行う。

母性看護学実習スケジュール表

	学生の行動計画	提出記録類	臨地実習指導者の役割	教員の役割
実習前	1. 学習課題ついての自己学習		病棟スタッフへ実習期間・実習内容の周知	事前学習の状況確認
実習1日目	1. 母性看護学実習オリエンテーション			1. 母性看護学実習オリエンテーションの実施 2. 施設別オリエンテーションの実施
実習2日目	1. 母性看護技術チェック ・沐浴・新生児のバイタルサイン 2. 妊娠期フィジカルイグザミネーションの復習 3. DVD 視聴 4. 学習課題の復習	1. 看護計画立案 2. 記録6 （カンファレンス記録）		1.母性看護技術の確認 2.看護計画の確認
実習3日～11日目	1.病院・病棟オリエンテーション 2.妊婦の健康診査 1)妊娠経過の情報収集 2)子宮底・腹囲測定の実施 3)レオポルド触診法の実施 4)NST 装着の見学及び実施 5)助産師外来の見学 6)保健指導(個別・集団)の見学 3.母乳外来、産婦健康診査、産褥1ヶ月健康診査の見学 1)対象褥婦の経過の把握 2)保健指導見学	1.妊娠期記録 1)記録2 （行動計画記録）	1.病棟・外来オリエンテーションの実施 1.妊婦外来・産褥外来実習のスケジュール調整 2.外来妊産褥婦へ挨拶 3.妊婦健康診査時、外来受診時の情報収集や実施内容の説明 4. 健康診査技法実施時の技術指導 5.実施後に振り返りを行い、実習体験の意味づけを行う	※外来実習の調整依頼 1.見学対象の情報収集の視点について指導 妊娠・分娩・褥婦・新生児経過等 2.妊婦健康診査内容および手技の指導 1)対象妊婦の情報収集 2)妊娠経過の診断 3)健康診査の流れ・各期における保健指導内容 4)NST 判読 3.母乳外来、産婦健康診査の目的やケアの内容について指導 4. 記録内容の指導
	1.分娩時の援助－実施 2.受け持ち母子の看護展開 1)受け持ち母子へ挨拶、自己紹介 2)情報収集、ウエルネス志向のアセスメント、看護計画 3)看護実践(日々の援助) 褥婦(進行性・退行性変化)、親子関係形成、親役割獲得過程 新生児(胎外生活適応過程) 4)保健指導－見学実習 6)母性看護技術の経験および到達 3.テーマカンファレンス 4.終了カンファレンスの実施 ※活発に意見交換を実施する	1.分娩期記録 1)記録1 (分娩見学実習記録) 2.産褥・新生児期記録 1)記録 2：実習計画記録 2)記録 3：基礎情報 3)記録 4：看護計画 4)記録 5：日々記録 3. カンファレンス記録6	2.受け持ち母子の選定、同意書の説明、協力依頼書(同意書)を取りかわす 1)日々の実習計画の調整 2)看護内容の指導、スタッフへの指導調整 3)援助場面においてコミュニケーションや情報収集の仕方、援助方法の指導をする 4)記録指導(主に日々の記録) 5)実習スケジュール調整 3.カンファレンスの助言指導 4.受け持ち外実習の調整(外来実習・分娩見学・新生児室実習等) 5.母性技術経験が習得できるよう調整	1.学習課題内容の指導 2.受け持ち母子への実習 1)受け持ち開始時挨拶 2)実習記録の指導 3)実習スケジュール調整 4)援助場面での指導 3.カンファレンス内容および準備の指導 1)カンファレンスの助言・指導 4.受け持ち外実習の調整(外来実習・分娩見学・新生児室実習等) 5.母性看護技術が経験できるよう調整

実習最終日（学内）	1. 実習体験を振り返る。 2.母性看護における多職種連携の継続看護について記録する。 3. 産褥期の受け持ちの記録を整理することで、母子の健康促進・家族関係を理解する。 4.最終提出できるよう、記録類を整理する。	1.記録7 （カンファレンス記録） 2.看護技術到達度表 3. 16:00 最終提出（担当教員） ※記録類を整理し、ファイルにまとめる		1. 実習後の面接の実施 2. 受け持ち記録の指導・助言

母性看護学実習計画（例）

実習期間：　年　月　日 から　月　日

茨城県立看護大学校　看護学科3年課程

NO	学生氏名	月日	□月○日										
		実習○日目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		受け持ち対象 / 曜日		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	火
1	A		学内実習 実習オリエンテーション	学内実習 母性看護技術チェック	AMオリエンテーション	分娩見学		AM 妊婦外来	1例目 褥婦・新生児	→			→	学内実習 レポート作成 16:00 記録提出
					産褥・新生児シャドウィング	→	→	PM 産後一か月健診				PM ベビークラス	PM カンファレンス	
2	B		学内実習 実習オリエンテーション	学内実習 母性看護技チェック	AMオリエンテーション	分娩見学			AM 妊婦外来	1例目 褥婦・新生児		→	→	
					産褥・新生児シャドウィング	→	→	→				PM ベビークラス	PM カンファレンス	
3	C		学内実習 実習オリエンテーション	学内実習 母性看護技術チェック	AMオリエンテーション	1例目 褥婦・新生児	→	→	分娩見学				AM 妊婦外来	
					産褥・新生児シャドウィング					産褥・新生児シャドウィング	→	PM ベビークラス	PM カンファレンス	
4	D		学内実習 実習オリエンテーション	学内実習 母性看護技術チェック	AMオリエンテーション	1例目 褥婦・新生児	→	→	分娩見学					
					産褥・新生児シャドウィング					産褥・新生児シャドウィング	→	PM ベビークラス	PM カンファレンス	
臨床指導者		○○ ○○			夜勤	夜勤明け	休み	日勤			日勤			
		□□ □□			日勤	日勤	夜勤	夜勤明け						
担当教員		◇◇ ◇◇				PM不在		AM不在				PM不在		
カンファレンス予定日													PM	

この計画表は学生４名のグループの場合のスケジュールの例である。
（＊ただし、分娩の状況などによりおおいに変更となる可能性がある。）

受け持ちは原則学生1名ずつとするが，状況により２名ずつペアになりグループ全員が妊婦・産婦・褥婦・新生児の実習を行えるよう、臨地実習指導者・教員と調整する。

分娩進行者がいた場合、なるべく見学できるようにスケジュール調整を行う。

【記録展開】

●受け持ち産褥新生児：＜記録3＞実習計画記録、 ＜記録4＞基礎情報1・2 、＜記録5＞看護計画(褥婦・新生児診断目標計画)、＜記録6＞日々記録(受け持ち期間中毎日記入)
●妊婦健診・助産師外来：＜記録1＞妊婦外来実習記録
●分娩見学：＜記録2＞分娩見学実習記録
●受け持ち外産褥新生児・母親学級・産後保健指導・産後外来：＜記録7＞行動計画記録

母性看護学実習評価表

茨城県看護大学校　看護学科3年課程

学籍番号　　氏名	実習施設	評定
	実習期間　　～	

		評価項目	学生	教員	自己評価2以下をつけた理由
人間関係形成能力	1	対象や周囲の人々と看護実践のための関係が積極的に築ける			
	2	対象や周囲の人々に与える影響を考えて行動できる			
	3	グループの中でメンバーシップ・リーダーシップを意識した行動がとれる			
看護実践能力	4	対象の身体的・精神的・社会的変化や健康状態を判断するために必要な情報を意図的に収集できる			
	5	妊娠・分娩経過から産褥新生児期に及ぼす影響を予測できる			
	6	生理的変化および正常からの逸脱が判断できる			
	7	ウェルネスの視点で健康の保持・増進に向けた計画が立案できる			
	8	退行性変化を促す援助が導きだせる			
	9	進行性変化を促す援助が理解できる			
	10	親役割獲得過程を促進する援助が理解できる			
	11	基本的な育児技術の習得を促進するための援助が理解できる			
	12	新生児の胎外生活適応に向けた援助が安全・安楽に実施できる			
	13	実施した援助を振り返り、評価できる			
	14	妊婦の健康や胎児の成長発育を保持・増進するための援助が理解できる			
	15	母子および親子関係における対象の反応を捉え、その反応の意味を理解できる			
	16	母性看護の体験から生命誕生について考え、親性を述べることができる			
	17	母性看護における看護師の役割を理解し、多職種との連携と継続看護の必要性が理解できる			
専門職業人としての倫理観	18	専門職としての倫理観を持ち、責任ある行動がとれる			
	19	自己学習に意欲的・自律的に取り組み、看護実践に反映できる			
看護の探求	20	実習の学びと自己の課題を明確にできる			
評価合計点（100点）					教員印

〈評価尺度〉

5点：主体的にできる。要点を助言することによりタイムリーに追加・修正ができる、または十分に説明ができる

4点：指導を受けてできる、方向付けの助言をすることにより追加・修正ができる、または説明ができる

3点：かなりの指導を受けてできる。具体的な助言により、時間を要するが追加・修正できる、または口頭で述べられる

2点：かなり指導を受けても課題が残る、繰り返し助言を受けても追加・修正が難しい、口頭でも述べられない

評価基準に該当しないものは斜線（／）で表示し、点数化しない

母性看護学実習評価の視点

		評価項目	評価の視点
人間関係形成能力	1	対象や周囲の人々と看護実践のための関係が積極的に築ける	□意見の違いや立場の違いを理解した話し合いができた □自分と周囲の関係性を理解し、主体的にかかわることができた □対象と援助的人間関係が築けた □とらえた反応の意味を考えることができた
	2	対象や周囲の人々に与える影響を考えて行動できる	□相手の立場にたって考え、適切な行動がとれた(患者、家族、指導者、メンバー、教員) □対象の言動から感じたことを反応の意味を確かめて、相手に伝えることができた
	3	グループの中でメンバーシップ・リーダーシップを意識した行動がとれる	□学習環境の特徴を理解し、状況に合わせた適切な行動をとることができた(患者や医療者の予定・都合を確認したうえで、自分の行動を調整し、報告・連絡・相談ができる) □ほかのメンバーの行動を把握し、自分の行動を調整できた □お互いに情報共有し、学習目標が到達できるよう協力できた □自己の役割を意識し、アサーティブなコミュニケーションがとれた
看護実践能力	4	対象の身体的・精神的・社会的変化や健康状態を判断するために必要な情報を意図的に収集できる	□対象者や家族と意図的なコミュニケーションを用い、情報が収集できた □電子カルテや母子健康手帳などから必要な情報を選択し収集できた □対象に必要な観察項目を理解し、記録に記載できた
	5	妊娠・分娩経過から産褥新生児期に及ぼす影響を予測できる	□妊娠・分娩経過から産褥期に及ぼす影響を解釈し予測ができた □妊娠・分娩経過から新生児期に及ぼす影響を解釈し予測ができた
	6	生理的変化および正常からの逸脱が判断できる	□産褥日数に応じた、生理的変化が表現できた □日齢に応じた、生理的変化が表現できた □知識と照らし合わせ、対象の状態に応じた解釈・分析・判断ができた
	7	ウェルネスの視点で健康の保持・増進に向けた計画が立案できる	□予測から退行性変化を促進する必要な援助計画を立案できた □予測から進行性変化を促進する必要な援助計画を立案できた □育児技術を習得する必要な援助計画を立案できた □予測から新生児の健康状態に応じた必要な援助計画を立案できた
	8	退行性変化を促す援助が導きだせる	□対象に応じた安全・安楽な援助ができた □前日の対象者の経過を踏まえ、援助の方向性を考えられた
	9	進行性変化を促す援助が理解できる	□産褥日数に応じた変化が理解できた □進行性変化に応じたケアが理解できた □次の日のケアの方向性が理解できた
	10	親役割獲得過程を促進する援助が理解できる	□知識を活用し、対象の反応の解釈ができた □判断した内容から、親役割獲得過程を促進する援助の気づきが表現できた
	11	基本的な育児技術の習得を促進するための援助が理解できる	□対象への指導の必要性が理解できた □知識を活用し、対象の基本的な育児技術の習得状況が観察できた □対象の育児技術促進への援助の気づきが述べられた
	12	新生児の胎外生活適応に向けた援助が安全・安楽に実施できる	□新生児の身体状態について情報収集し、正しくアセスメントができた □バイタルサイン □体重 □皮膚 □頭部 □活気の有無 □排泄 □黄疸 □栄養 □実施前に環境、必要物品を整えられた □声かけをしながら援助ができた □胎外生活適応に向けた援助が安全・安楽に実施できた □安全性 □正確性 □時間 □効率性 □保温 □観察内容 □援助の手順
	13	実施した援助を振り返り、評価できる	□実施した援助を客観的に振り返り、表現できた □実践結果から、現在の対象の状態を解釈できた □対象の反応から実施した援助の意味を考えることができた □実施した援助をとおして、学びや気づき、今後の課題が具体的に表現できた □看護計画の追加・修正ができた
	14	妊婦の健康や胎児の成長発育を保持・増進するための援助が理解できる	□カルテ等から必要な情報を収集することができた □健診結果から対象の状態を解釈できた □対象に必要な必要な援助を考えることができた □対象に応じた保健指導が理解できた
	15	母子および親子関係における対象の反応を捉え、その反応の意味を理解できる	□対象への関心を寄せ、効果的なコミュニケーションがとれた □対象の反応を捉え、反応の意味を考えることができた □知識と対象の反応とを照らし合わせて、意味づけできた
	16	母性看護の体験から生命誕生について考え、親性を述べることができる	□母性看護の体験をとおし、生命誕生についてや出産についての気づきを具体的に表現できた □実習体験から自己の母性観・父性観を述べることができた □他者からの発言だけでなく、自身の思いや感情、身体感覚も表現できた
	17	母性看護における看護師の役割を理解し、多職種との連携と継続看護の必要性が理解できる	□母性看護における看護師の役割が表現できた □多職種との連携、協働のあり方が表現できた □継続看護の必要性について実習体験をふまえ、表現できた
専門職業人としての倫理観	18	専門職としての倫理観を持ち、責任ある行動がとれる。	□学習者としてのコミュニケーション;臨地での学習を行うために必要なコミュニケーションが効果的にとれた(挨拶、報告、質問、言葉遣い、表情、振る舞い、など) □看護者としてのコミュニケーション;対象に関心を寄せ、看護援助を実施するために必要なコミュニケーションがとれた(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、表情、振る舞い、説明、同意を得る、など) □情報管理;個人情報保護や守秘義務を理解し、適切な行動がとれた □体調管理;自分本来の力が発揮できるよう心身の健康を維持する適切な行動がとれた(栄養、休息、生活リズム、感染症対策、ストレスコントロール、など) □決められた約束事を守り、誠実な態度と適切な行動がとれた
	19	自己学習に意欲的・自律的に取り組み、看護実践に反映できる	□知識や能力向上のための学習に必要な行動がとれた(質問する、相談する、資料を探す・調べるなど) □課題を意識して、計画的に学習をすすめることができた □自分の学習活動を客観的に振り返り、次の課題を具体的に表せた
看護の探求	20	実習の学びと自己の課題を明確にできる	□グループ学習(コミュニケーション、協力、多様な価値を受け入れる、意見をまとめる、タイムマネジメント、チームワーク、課題解決)を意識して、討議ができた □既習学習を用いて、実習体験を説明できた □自分の考えを論理的に整理し、筋道を立てて伝えることができた

記録1　分娩期記録　　学生番号:

分娩見学実習記録

病院実習　　日目

本日の実習目標および行動計画	
学生の目標	
行動計画	

産婦の情報	時間	分娩経過および実施したケア
・年齢:　　歳代(　前半　・　後半　) ・妊娠分娩歴:　　回経妊　　回経産 ・妊娠週数:　　週　　日 ・児の推定体重: ・妊娠経過: ・入院主訴:		

本日の実習の学び

行動計画記録

学生番号:

○月　　日（　）実習　　日目

本日の目標			
学生 目標			
時　間	行動計画	実施・結果	実施したこと・結果の考察
本日の実習の学び			
指導者印		教員印	

記録3　産褥・新生児期記録（基礎情報1）　　学生番号：

氏名：　A　様	年齢：　　歳代 （前半・後半）	職業(以前の職業も含む、職場復帰の時期等)
身長：　　cm	非妊時体重：　　kg	BMI：　　判定：
【既往疾患】 ※年齢・病名・治療内容など	【月経歴】 初経：　　歳 周期：　　日型（　順・　不順　） 持続：　　日 月経時障害：有（　　）・無	【家族構成・健康状態】 家族の中での対象の役割： 性格的特性（本人・家族から）

妊娠・分娩歴	時期	妊娠週数	妊娠分娩産褥経過	性別	出生体重	健・否	栄養方法

分娩予定日：　　年　　月　　日	最終月経：　　年　　月　　日～　　日間

血液型（Rh）	HBs 抗原	HCV	梅毒	HIV	HTLV-1	風疹	GBS	クラミジア	細胞診

【妊娠経過】母体・胎児の健康状態

【日常生活】	【嗜好品】 妊娠前：喫煙　　本/日（　　歳から）飲酒： 妊娠後：喫煙　　本/日（　　歳から）飲酒：
【妊娠-分娩に対する知識・学習状況】 ・母親（両親）学級受講：無・有（　　） ・母乳育児希望：無・有（　　） ・妊娠中の運動：無・有（　　）	【妊娠-出産-育児に対する捉え方、バースプラン】 本人： 夫・家族：
【分娩後に帰る場所】	【分娩後のサポート体制】

【入院時の状態】
入院月日：　　年　　月　　日（妊娠　　週　　日）主訴：
子宮底：　　cm　腹囲：　　体重：　　kg（非妊時から　　kg）
一般状態：体温：　　℃　脈拍：　　回/分　血圧：　　mmHg　浮腫：
胎児の状態：推定体重　　g（妊娠　　週　　日）発育状態：　　週相当
胎児の健康状態：CTG所見⇒

記録３（基礎情報２）　　学生番号：

【分娩経過】
陣痛開始：　月　日　時　分
全 開 大：　月　日　時　分
破　　水：　月　日　時　分（自然・人工）
胎児娩出：　月　日　時　分 胎位・胎向：
胎盤娩出：　月　日　時　分 胎児面・母体面・半母体面
【分娩後２時間】
１時間：子宮底：　　硬度：良好・不良　処置：
２時間：子宮底：　　硬度：良好・不良　処置：
帰　室：　月　日　時　分
体温：　　℃　脈拍：　　回/分　血圧：　　mmHg
創部の状態：　　後陣痛の状態：

【分娩所要時間】　【出血量】
Ⅰ期　時間　分　Ⅰ期：　ml
Ⅱ期　時間　分　Ⅱ期：　ml
Ⅲ期　時間　分　Ⅲ期：　ml
計　時間　分
１時間：　ml
２時間：　ml
合計　ml

分娩方法：自然・吸引・鉗子・クリステレル児圧出・帝王切開（適応；　　）
裂傷：無・有（会陰：Ⅰ度・Ⅱ度・Ⅲ度・Ⅳ度、膣壁・頸管）
会陰切開：無・有（右側・正中・左側）　縫合処置：無・有（　　）
分娩に使用した薬剤：

【新生児】
在胎週数：　週　日　性別：男・女　単胎・多胎　奇形：無・有(　　)点眼：
Apgar スコア：１分後　点（　）　５分後　点（　）臍帯動脈血：pH
早期母児接触：実施・未実施

体　重：　g　身　長：　cm　頭　囲：　cm　胸　囲：　cm　大泉門：　×　cm
小横径：　cm　大横径：　cm　前後径：　cm　小斜径：　cm　大斜径：　cm

【直　後】体温：　℃　心拍数：　回/分　呼吸：　回/分　SpO2：
【１時間】体温：　℃　心拍数：　回/分　呼吸：　回/分　SpO2：
【２時間】体温：　℃　心拍数：　回/分　呼吸：　回/分　SpO2：

【胎盤】
大きさ：　cm×　cm
厚　さ：　cm　重さ：　g
欠　損：無・有（部位　　）
石灰沈着：無・有（少・中・多）
白色梗塞:無・有(　cm×　cm)

【臍帯】
長さ：　cm 太さ：　cm×　cm
巻絡：無・有
（頸部・体幹・四肢　　回）
結節：無・有（真・偽）
血管：臍動脈　本 臍静脈　本

【卵膜】
欠損：無・有
着色：無・有（少・中・強）
【羊水】
混濁：無・有(Ⅰ Ⅱ Ⅲ)
色：無・白・黄・緑・血性

産褥期の予測	新生児期の予測

茨城県立看護大学校　看護学科3年課程

記録4　看護計画〔　　〕　　立案日：○月　日(　)(実習　日目)　　学生番号：

目 標	OP(観察項目)	TP(ケアプラン・工夫・考慮する点 含)	EP(指導・教育計画・工夫・考慮する点 含む)

日々記録　　産褥・出生　　日目　　学生番号:

行動計画	＊分娩経過、前日の経過から導きだされた褥婦と新生児の援助の方向性から記載する

褥婦

					状態のアセスメント・実施評価
全身状態	S情報:		バイタルサイン	呼吸 回/分 血圧 / mmHg 体温 ℃ 脈拍 回/分	【全身状態:良・否】
	検査と結果		食事水分(前日)	朝: / 、昼: / 、夜: / 摂取量: mL/日	【退行性変化:前日・標準と比べ良・否】
	浮腫		疲労		
退行性変化	子宮収縮	子宮底:臍( ) 横指 硬度:良・やや良・悪	排泄(前日)	尿: 回/日 便: 回/日	
	悪露	色:赤色・褐色・淡血性 凝血塊:無・有	創部 脱肛	無・有:状態 無・有:状態	【明日の援助の方向性】
	後陣痛	無 有:自制内・自制不可	薬	無・有	
進行性変化	S情報:		ポジショニング	良・悪 縦・横・交差・フットボール	【進行性変化:前日・標準と比べ良・否】
			ラッチオン	良・悪	
	乳房緊満・乳頭トラブル:部位を表記 ○ ○		乳頭	開通:右 本、左 本 射乳:無・有	【明日の援助の方向性】
			乳汁分泌	無 有:にじむ・ぽたり・たらたら	
心理適応状態/育児技術獲得/家族・社会	S・O情報:				【心理・社会面:問題無・有】 【明日の援助の方向性】

新生児

					状態のアセスメント・実施評価
バイタルサイン	体温	℃	チアノーゼ	無 有:部位	【全身状態:良・否】
	呼吸	回/分	酸素飽和度 異常呼吸	% 無・有	
	心拍数	回/分	リズム不整	整・不整	
体重増減	体重	g	排尿(前日)	回/日 性状:	【体重減少率:正常範囲内・逸脱】
	体重減少率	%	排便(前日)	回/日 性状( )	
		前日比: g	1回量	母乳: 分× 回 人工乳: ml	【黄疸:正常範囲内・逸脱】
	栄養方法	母乳・混合・人工乳	1日総量(前日)	母乳 回/日(ml) 搾乳 mL/日 人工乳 mL/日	
黄疸	ミノルタ値	前日比:＋・－ mg/dl mg/dl	臍帯 付着	有・無	【その他】
	部位		臍帯 状態	湿潤・乾燥 トラブル無・有	
清潔		ドライテクニック・沐浴	成熟度		
検査処置等			反射		【明日の援助の方向性】
境環			感染対策		

茨城県立看護大学校　看護学科３年課程

カンファレンス記録

学生番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学内１日目　・　テーマカンファレンス　・　終了カンファレンス

【テーマ：　　】